

整 形 外 科

1. 基本研修体制

整形外科は全身の退行性変化による慢性疾患や外傷などの急性疾患、小児における先天性疾患や骨軟部腫瘍等多くの疾患を扱い幅広い知識が要求されます。したがって初期の短期研修においては的を絞り

(1) 比較的扱うことが多い退行性疾患の診断や治療と、(2) 急性期疾患（主に外傷）の初期治療の研修を二大項目としました。3ヶ月の短期研修の場合は大学病院での研修が主となりますが、そこでは診療グループの一員として慢性疾患の診断や治療に携わることになります。一方、外傷に興味がありそちらの研修を希望する場合は関連病院で研修することになります。この場合、整形外科のみならず救急医療における技術修得も同時に研鑽することも可能で、その点では有意義であると思います。このプログラムの選択はあくまでも研修医の希望を尊重し、できるだけ指導医と MAN TO MAN 体制で診療に従事します。

2. 研修目標

- 1) 整形外科が扱う疾患を知る。

整形外科医が診断し治療すべき疾患の概要を知り、病歴から必要な X 線検査等の指示が出せる。

- 2) 基本的診断技術を身につける。

病歴や神経学的所見、関節疾患における所見がとれる。

X 線において関節症や脊椎の退行性変化、四肢や脊柱の骨折の診断ができる。

四肢関節疾患の検査方法についてその意義を知る。(X 線、CT、MRI、血液検査、関節液検査)

- 3) 四肢外傷における基本的治療計画をたてられる。

外傷の基本処置を学び特に日常遭遇することの多い指尖部損傷や開放創などの四肢外傷において基本的治療方法を実施できるレベルに達する。

- 4) 関節症や脊椎の退行性疾患の、保存治療を計画し、実施できる。

- 5) 整形外科的処置の手技を行える。

関節穿刺、脊髓腔穿刺や造影ができる。

骨折における直達牽引、介達牽引の適応と手技を修得する。

局所麻酔方法、洗浄方法、基本的創処置 (débridement)、縫合方法、外固定方法など外傷の基本的治療を習得する。

- 6) 抗生剤、NSAIDs を適切に処方指示できる。

禁忌薬剤、合併症について知る。

- 7) 清潔、不潔の意識を確立する。

病棟、外来、手術室において、清潔な回診介助や手術助手ができる。

感染患者における処置の方法を知る。

- 8) 基本的手術（人工膝・股関節、骨接合術）の術後療法のプログラムが作成できる。

3. 研修スケジュール

整形外科の研修期間は短いため、整形外科医として極めて基本的な技術を研修することとなる。大学病院では診療グループ（股、脊椎、下肢、上肢、腫瘍）に属しその一員として診療に携わる。研修期間の時間的な制約から1ないし2グループのローテーションとなるが、所属するグループを選択することが可能である。また外傷の研修を希望する場合は研修病院の担当医や研修センターと協議を計り病院を選択し研修を行う。この場合の研修は救急病院で行うことになるが、指導医とMAN TO MAN体制で行うこととなり、より内容の濃い研修が可能となる。

4. 週間スケジュール

以下に股関節グループでの研修スケジュールについて記載するが基本的に他のグループもこれに準ずる。

	月	火	水	木	金
午前	7:30 術前カンファランス 8:30 外来	8:45 手術室	9:00 回診	8:30 外来	7:30 グループカンファランス 8:45 手術室
午後	13:30 外来 病棟業務 回診	13:00 手術室 病棟業務 回診	14:00 検査 (造影) リハビリ	13:00 病棟業務	13:00 手術室

5. その他

研修に特別な希望（小児整形外科等）がある場合には、御相談下さい。

整形外科指導責任者 伊藤 浩 教授
研谷 智 講師
小林 徹也 講師
能地 仁 講師
指導教員数計：12名